

家から学校まで徒歩で十五分。いつも、小学校の同級生だった二人の友達と一緒に登校しています。その友達とは学校での出来事や部活動の事を話したり、テストの予想問題を出し合ったりしながら通っています。その途中、ちょうど伊勢田駅の踏切を渡った所で、いつも同じように年配の男性と女性が立っています。そして、僕たちに向かって「おはよう。」と笑顔で元気にあいさつをしてくださいます。全く知らない人なのに、その方たちは親しみをもって接してくれます。小学生の頃とは違って、僕たちに対して大人のように接してください。初めは、顔も知らないのに、どうして僕たちのことを知っているのだろうと不思議に思っていました。

ある時、学校の授業で「制服着こなしセミナー」というものがありました。それは、中学生が制服を着る意味を考えてみるという内容でした。そこで、制服には大きく分けて二つの意味があることを知りました。一つ目は、乱れた服装にならないように学校の規律を守るためです。二つ目は、制服を着ていることによって地域の方に西宇治中学校の生徒であることを分かってもらうためです。つまり、顔を知らなくても制服を着ているだけで、僕たちが西宇治中学校の生徒であることが分かっていたのです。このことを教わってから、制服を着ていることで西宇治中学校の一人として責任を持たなければならないと思うようになりました。

その方たちは、登校時だけでなく、下校時や夏休みの部活動の時にも毎日のように見かけます。体操服を着ていても西宇治中学校の生徒であることを知ってくれているようです。雨の日も毎日なのです。

しかし、地域の方があいさつをしてくださっているのに、僕は自分から先にあいさつをすることができていません。友達と一緒にいる時はあいさつができるのですが、一人の時はあいさつというより会釈しかできていません。

朝に声をかけてもらうと一日の始まりを感じ、今日も頑張ろうという気持ちになります。部活動の時には「いつも頑張ってくらいいね。」と言ってもらえます。その帰りには「おつかれさん。」と声をかけてくれる時もあります。とてもうれしく、気持ちがよくなります。

地域の見守りというのは、交通安全だけでなく、気持ちの面でも安心させてくれるものなのだと感じました。だから、本当は「ありがとうございます。」と言いたいのに、恥ずかしい気持ちと、それを言い出すタイミングが僕にとっては難しいのです。あいさつは言葉にしないと伝わらないと頭では分かっているのに、それができていないことに申し訳ない気持ちで一杯になります。

最近新型コロナウイルスの影響で物理的に人との距離を取らなければならなくなりました。ソーシャルディスタンスという言葉も生まれて、人と接する機会が少なくなりました。それにもかかわらず、地域の方が毎日のように同じ場所であいさつをしてくれていることを本当にうれしく思います。あいさつによる人との関係はどんな状況でも近づけていかななくてはいけないのです。

小学生の頃は何も思わなかったのに、中学生になってからあいさつの大切さを考えるようになりました。だから、あいさつをしてくれる地域の方に感謝の気持ちを心で思うだけではなく、言葉で伝えたいという気持ちになりました。「ありがとうございます。」と勇気を出して伝えたいです。